

ナンバリング	B①07	科目名	こども家庭支援の心理学
担当形態	オムニバス	担当教員	石井 喜美・佐藤 隆司
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	授業中、適宜、配布する		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2単位・講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し、説明できる。 2. 家族・家庭の意義(機能)を理解するとともに、日本における家族の変遷と家族支援の必要性を理解する。 3. 「豊か」な人生を送るためのワーク・ライフ・バランスと働き方改革に関して理解する。 4. こどもの精神保健とその課題について理解し、説明できる。 		
授業の概要	<p>生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、親子・家族関係に関して発達の観点と社会的な観点から理解する。また、子育て家庭を取り巻く現在の状況と課題、こどもの精神保健等に関して理解する。</p> <p>なお、授業の進捗状況により若干、授業計画は前後することもあり得る。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション「こども家庭支援」という視点について(石井・佐藤)</p> <p>第2回 乳幼児期から学童期前期にかけての発達(石井)</p> <p>第3回 学童期後期から青年期にかけての発達(石井)</p> <p>第4回 成人期・老年期における発達(石井)</p> <p>第5回 親子関係・家族関係の理解(石井)</p> <p>第6回 子育て経験と親としての育ち(石井)</p> <p>第7回 家族・家庭の意義と機能(佐藤)</p> <p>第8回 子育てを取り巻く社会的状況(佐藤)</p> <p>第9回 ライフコースと仕事・子育て(佐藤)</p> <p>第10回 多様な家庭とその理解(佐藤)</p> <p>第11回 特別な配慮を要する家庭(石井)</p> <p>第12回 こどもの生活・生活環境とその影響(石井)</p> <p>第13回 こどもの心の健康に関わる問題(石井)</p> <p>第14回 第1回－第14回学修内容確認(石井・佐藤)</p> <p>第15回 総括(石井・佐藤)</p>		

準備学習と必要時間	<p>【予習】 毎日 10 分以上は家族・保育に関連する新聞、ネットニュースなどを読んでおくこと。</p> <p>【復習】 授業後は、授業中に指摘したポイント、留意事項などを説明できるように整理しておくこと(予習・復習計1時間以上)。</p>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度等(課題提出期限厳守) — 20% ・課題 — 20% ・期末試験 — 60% 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『保育所保育指針』厚生労働省, 2017年 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省, 2018年 ・本郷一夫・神谷哲司編著『シードブック 子ども家庭支援の心理学』建帛社, 2019年 ・永房典之編著『新・子ども家庭支援の心理学—発達・家族の理解と子育て支援—』教育情報出版, 2023年 <p>※その他, 必要に応じて授業中に紹介する。</p>				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中心。 ・私語、飲食、化粧、電子機器使用(録画・録音等)などは禁止。 				
特記事項 課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・質問は原則、翌週の授業の際、コメントする。 ・課題等に関しては模範解答を提示して解説をする 				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の対象の理解に関する科目
教員の実務経験	<p>(佐藤)児童相談所(区域担当・虐待防止調整担当・里親担当児童福祉司)、児童養護施設、児童自立支援施設等の実務経験を活かして現場の実情と課題等に触れ、より実践的な授業を展開する。</p>				